

観光客行動歴分析レポート 2023年度最終版（概要版）

2024年3月29日

令和5年度DX観光客動態調査事業

沖縄県 文化観光スポーツ部 観光政策課

委託先

【沖縄型DX観光戦略策定プロジェクト（共同企業体）】

一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター

Vpon JAPAN株式会社

事業概要

事業概要（令和5年度） | 目的・調査手法等

■事業の目的

観光客の属性別に行動歴等を調査・分析することでそのニーズを把握し、ターゲットを明確にした誘客プロモーション、地域資源を活かした観光ツアーの造成や観光コンテンツの開発に活用するなど、ターゲットマーケティングの展開に繋げる。
これにより、安全・安心で快適な誰もが楽しめる沖縄観光を推進し、観光客の満足度向上、ひいては観光収入の増加を図ることを目的とする

■事業の概要

沖縄県を訪れた観光客の携帯電話のGPS位置情報等を利用して、観光客が訪れた観光地や観光ルート、滞在先などの行動歴等を、居住地、性別、年齢の属性別、季節毎に調査分析を行う

■GPS位置情報

データの特徴	Agoop社のGPS位置情報データ 人の流れを「点」で把握可能な流動人口データ。 分単位・緯度経度単位で細やかに把握も可能。
収集方法	スマートフォンの位置情報系のアプリから収集
収集キャリア	キャリアフリー (docomo, au, SoftBank, Rakuten, LCC等)
取得期間	2023年4月-2024年2月(11ヶ月分)
分析対象	沖縄県全体の取得データから任意の指定エリアを調査
分析対象者	国内旅行者

基礎的動態調査

訪問分析 (時期・場所・時間)	いつ・どの地域に訪問したか
エリア相関	この地域に訪問した人は、他にどの地域に訪問する傾向があるか
初日・中日・最終日	旅程のどのタイミングでどこに訪問したか
移動ルート (市町村別・スポット別)	どこからどこに訪問したか
滞在分析	いつ・どの地域に滞在したか

着目動態調査

宿泊施設と観光スポットとの相関	
国内旅行潜在ニーズ調査 (WEBアンケート)	
特徴的な事項に着目した要因調査 (SNSデータ/検索データ)	
関係機関へのヒヤリング・課題抽出	

観光客行動歴分析レポート

■第1Q・第2Qのレポート

第1Q(4月-6月)・第2Q(7月-9月)については、各期ごとに、「基礎的動態調査」の調査・分析結果を取りまとめ、レポートを発行

■最終レポート(2024年3月)

「基礎的動態調査」と「着目動態調査」の調査・分析結果を取りまとめ、「誰に、何を、どのように」訴求するかターゲットマーケティングの展開に向けた戦略を立案



全体概要

背景

携帯電話等のGPSを活用した観光客の行動歴データや購買データ等のビッグデータ、ICT等デジタル技術の発展

課題

多彩かつ質の高い観光に向けたDXを推進
多様な市場に対応した効果的な誘客活動の展開

目的

国内観光客の行動歴等を調査・分析することで、そのニーズを把握し、地域資源を活かした観光ツアーの造成や観光コンテンツの開発、誘客プロモーションに活用するなど、**ターゲットマーケティングの展開**に繋げる

事業概要 | 本調査で使用するAgoop社 Mosaic属性付きAgoop人流データについて

- ◆ 本調査ではAgoop社の以下のgroup type別にセグメンテーションされた「Mosaic属性付きAgoop人流データ」を活用し、沖縄来訪者の属性ごとの動向を調査分析する

group_type_name	description	全国の割合 (%)	特徴1 (世帯収入)	特徴2 (年齢の幅)	特徴2 (多い年齢層)	特徴3 (世帯)	特徴4 (住居)	特徴5 (居住エリア)
A	大都市で活躍する高所得者層	2.68	世帯収入が非常に高い	20-49歳	30～34歳	若い単身世帯	高額な高層賃貸マンション	東京圏
B	高級住宅地の富裕層	6.52	世帯収入が非常に高い	40-54歳	40～44歳	核家族世帯	持ち家の大きな一戸建	閑静な高級住宅地
C	都市周辺・地方都市の豊かな中高年	6.99	世帯収入が高い	55-84歳	65～69歳	核家族世帯や三世帯世帯	持ち家の一戸建	郊外
D	郊外住まいの若い家族	7.24	世帯収入が高い	35-49歳	40～44歳	若い夫婦と子供の家族世帯	持ち家の高層マンション	大都市郊外の閑静な新興住宅地
E	都市部の会社員	10.43	世帯年収が高い	20-49歳	25～29歳	若い単身世帯	賃貸マンション	都心部近郊
F	キャンパス周辺の大学生や大学関係者	2.17	世帯収入が低い	19-24歳	20～24歳	若い単身世帯	賃貸マンション	大学キャンパス周辺
G	地方中核都市の若者世代	5.64	世帯収入が低い	20-39歳	25～29歳	若い単身世帯	賃貸マンション	地方都市の繁華街
H	地方の賃貸住宅ファミリー	6.92	世帯年収が低い	25-44歳	40～44歳	若い夫婦と子供の家族世帯	賃貸マンション	地方都市
I	工業都市の勤労者	6.93	平均的な世帯年収	30-49歳	40～44歳	若い夫婦と子供の家族世帯	持ち家の一戸建	地方の工業地帯
J	農林漁業を営む家族	6.45	平均的な世帯収入	55歳以上	60～64歳	三世帯世帯	持ち家の一戸建	日本全国の山間部や沿岸部
K	地方都市の共働き世帯	15.63	世帯年収が低い	55歳以上	65～69歳	三世帯世帯	持ち家の一戸建	地方都市の市街地周辺
L	地方の高齢者	7.32	世帯収入が低い	75歳以上	80～84歳	高齢の夫婦	持ち家の一戸建	農村・漁村
M	高齢化地域の住民	8.16	世帯年収が低い	70歳以上	65～69歳	高齢の単身世帯	共同住宅と一戸建	地方都市の市街地周辺
N	都市部の公営住宅や賃貸アパート住民	6.92	世帯収入が低い	65-84歳	70～74歳	単身や夫婦のみの世帯	公営団地	関西の大都市

事業概要 | エリアと市町村の分類について

- ◆ 沖縄県の分析対象を整理するにあたり、エリアを「南部、中部、北部、離島」の4エリアに分類
- ◆ エリア別の市町村は以下の通り

citycode	市町村名	エリア
47207	石垣市	離島
47214	宮古島市	
47315	伊江村	
47353	渡嘉敷村	
47354	座間味村	
47355	粟国村	
47356	渡名喜村	
47357	南大東村	
47358	北大東村	
47359	伊平屋村	
47360	伊是名村	
47361	久米島町	
47375	多良間村	
47381	竹富町	
47382	与那国町	

citycode	市町村名	エリア
47201	那覇市	南部
47210	糸満市	
47212	豊見城市	
47215	南城市	
47348	与那原町	
47350	南風原町	
47362	八重瀬町	
47205	宜野湾市	
47208	浦添市	中部
47211	沖縄市	
47213	うるま市	
47324	読谷村	
47325	嘉手納町	
47326	北谷町	
47327	北中城村	
47328	中城村	
47329	西原町	

citycode	市町村名	エリア
47209	名護市	北部
47301	国頭村	
47302	大宜味村	
47303	東村	
47306	今帰仁村	
47308	本部町	
47311	恩納村	
47313	宜野座村	
47314	金武町	

調査・分析結果サマリー①

沖縄県に関する各種データの分析から、見えてきた課題と今後に向けた示唆のサマリー。

	基礎的動態調査	着目動態調査 宿泊施設と観光スポットの相関分析	着目動態調査 国内旅行潜在ニーズ調査
分析結果 考察	<ol style="list-style-type: none">10月に最多の訪問者数/訪問日数<ul style="list-style-type: none">2023年沖縄県において最も訪問者数が多くなったのは10月だった。特に北部への訪問者数、訪問日数が増加し、中部を大幅に上回った1月大幅な訪問者数の減少<ul style="list-style-type: none">2023年度1月は訪問者数が例年より大幅に減少。羽田空港における旅客機と海上保安庁機の衝突事故による羽田空港のC滑走路閉鎖が6日間続いた影響と考えられる観光施設への訪問が増加<ul style="list-style-type: none">2023年度は2022年度と比較し、北谷アメリカンビレッジや海洋博公園など観光施設への訪問割合が増加。特に海洋博公園への訪問割合が伸びた沖縄周遊拠点地域の確認<ul style="list-style-type: none">令和4年度のレポートで報告された内容と同様に那覇市、恩納村、本部町、名護市、北谷町、豊見城市に多く訪問している傾向が確認された	<ol style="list-style-type: none">ホテルタイプ別訪問傾向<ul style="list-style-type: none">南部のリゾートホテル及びシティホテル滞在者は南部を中心とした観光施設への訪問が多い一方、ビジネス・宿泊特化型ホテル滞在者は繁華街や商業施設への訪問が多いエリア別訪問傾向<ul style="list-style-type: none">中部リゾートホテル滞在者は南部や北部の観光地へ分散して訪問している市町村/時間帯別観光施設訪問傾向<ul style="list-style-type: none">該当市町村にある観光地への訪問は午前中～昼過ぎの訪問が相対的に多く、商業施設は日中を通じて満遍なく訪問されている傾向エリア/属性別観光施設訪問傾向<ul style="list-style-type: none">エリア・属性に関わらず、南部・中部・北部の人気観光地（国際通り、北谷アメリカンビレッジ、海洋博公園）への訪問が多い	<ol style="list-style-type: none">ペルソナ調査<ul style="list-style-type: none">旅行の意思決定を積極的に行う層を中心に沖縄観光の調査を実施した結果、旅行に対する深層ニーズ（①アクティビティ、②リラックス、③文化探訪）を3つの因子に、そして、人物特性を表すペルソナを4種類（A 首都圏在住沖縄リピートファミリー、B 都市部在住アクティブ若年層、C 関西圏在住旅好きシニア夫婦、D 中高年リッチトラベラー）を特定コンテンツマッチング調査<ul style="list-style-type: none">特定したペルソナの沖縄観光コンテンツの体験意向を調査。A 首都圏在住沖縄リピートファミリーは全項目で高い体験意向があり、特にシュノーケル、トレッキング&カヤック、沖縄料理の体験意向が非常に高い結果となったB 都市部在住アクティブ若年層は沖縄料理、トレッキング&カヤック、シュノーケルの料理やアクティビティ系コンテンツに対して体験意向が高かったC 関西圏在住旅好きシニア夫婦は沖縄料理、齋場御嶽などリラックス要素や地域の歴史・文化に関心があつたD 中高年リッチトラベラーは沖縄料理への関心はあつたが、他の沖縄のコンテンツへの体験意向は低かった

調査・分析結果サマリー②

沖縄県に関する各種データの分析から、見えてきた課題と今後に向けた示唆のサマリー。

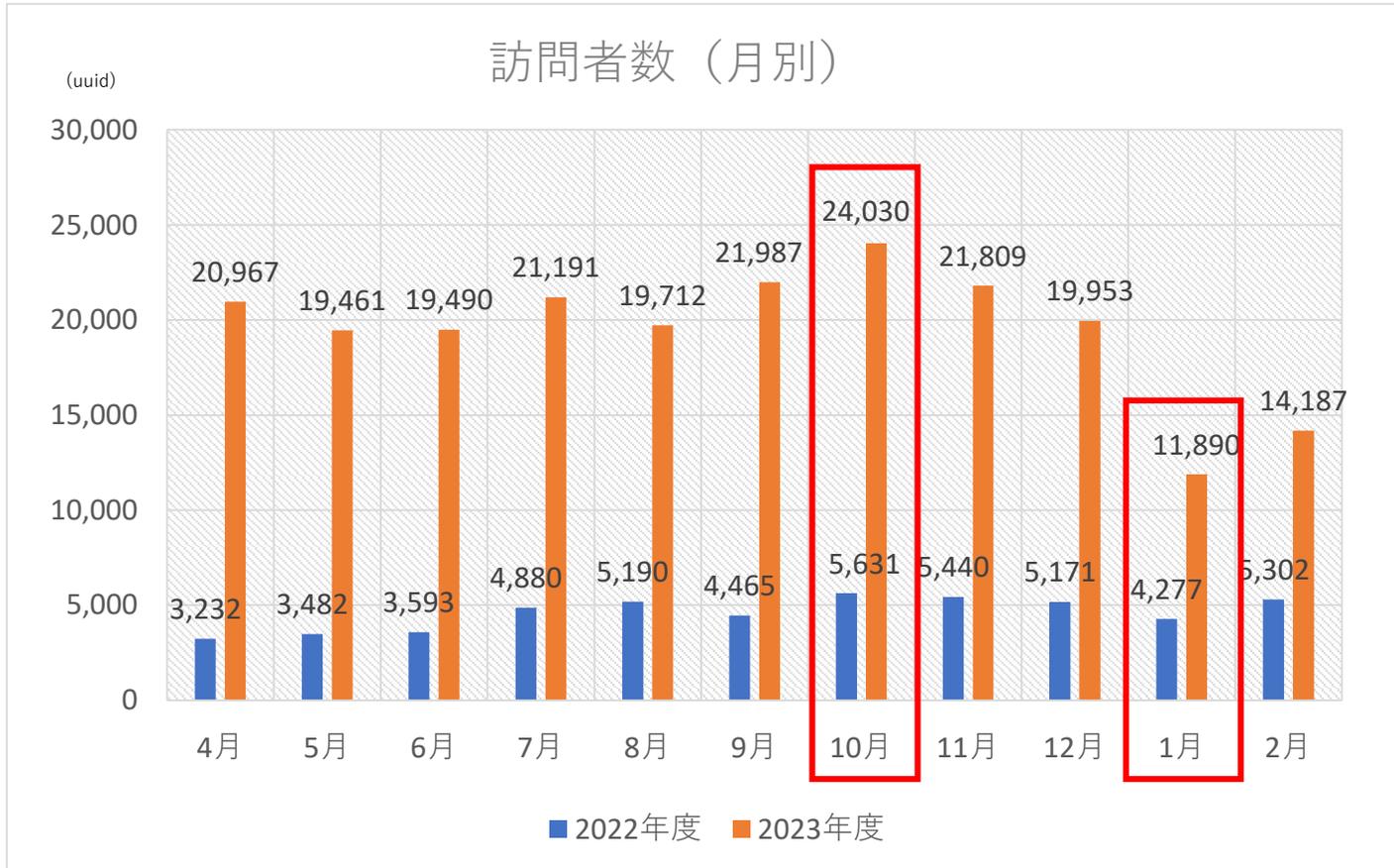
	着目動態調査 特徴的な事項に着目した要因調査	着目動態調査 関係機関へのヒヤリング・課題抽出	着目動態調査 関係機関へのヒヤリング・課題抽出
分析結果 考察	<p>1. 海洋博公園来訪者数増加の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎的動態調査02_1 施設別訪問件数にて、訪問先の構成比で海洋博公園(沖縄美ら海水族館・熱帯ドリームセンター)が2022年度に比べて2023年度が増加している要因を考察。以下の仮説を指摘 ✓ 2021年7月17日より県内で実施する「そらとぶピカチュウプロジェクト」のデジタルスタンプラリーが2024年3月31日を以って終了に伴い来訪者増の可能性 ✓ 課題となっていたレンタカー不足が解消され本部地域へのアクセス増による可能性 	<p>1. 地方部から訪問する観光客の特性 (OCVB)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 搭乗率が課題の地方路線(新潟、岩国、静岡、愛媛、香川、鹿児島)から沖縄に来訪している観光客のうち来訪が多い性年代・推定居住地を特定しターゲットを提言 <p>2. 北中城村観光スポット移動分析 (北中城村観光協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 課題であった北中城村内周遊を促進する目的で「東海岸周遊コース(午前、午後)」「西海岸周遊コース」を訪問需要の高いスポットと時間に基づき設定 <p>3. 北谷町を起点とした中部を周遊する観光客の特性 (沖縄市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 北谷町を訪問する観光客を中部域で周遊させることが十分にできていないという仮説の検証を行い、仮説通り、北谷町に訪問した観光客は沖縄市をはじめとした中部地域への訪問は多くないことが確認 ✓ 訪問者の多い「E_都市部の会社員」や「G_地方中核都市の若者世代」へのターゲットマーケティングの展開を提言 	<p>4. ホテル-北谷町観光スポット訪問分析 (北谷町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 宿泊税検討にあたり、宿泊施設と観光客の動態を調査。北谷町宿泊者の78.9%は北谷アメリカンビレッジ、2.1%はアラハビーチへ訪問しており北谷町への宿泊が地域の観光地への訪問に大きく貢献している ✓ 20代、30代はアラハビーチとの相関が他の年代と比較し高いため、20代、30代へアラハビーチの魅力を訴求することにより分散化に繋がられる可能性がある <p>5. 恩納村内を移動する観光客の移動傾向分析 (恩納村観光協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 村内の公共バスやオンデマンド交通の導入検討にあたり根拠となるデータ収集を目的に実施。村内公共交通の導入を検討するのであれば、20-23時間、恩納村北部および南部地域の移動需要が確認された時間帯に優先的に導入することを提言 ✓ 4-7時も季節に関わらず移動が多い傾向にあるため、20-23時以外の時間帯として導入することを提言 <p>6. 4~6日滞在する観光客の特性 (南城市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 南城市を訪れる観光客の滞在日数が短い課題を解決するため、すでに中・長期滞在做している訪問者の特性を把握し、施策への示唆を得ることを目的に実施 ✓ 沖縄全体と比較し、南城市の4-6日滞在者の属性のうち「E_都市部の会社員」の訪問割合が少なかったため、当該属性をターゲットにプロモーションを行い、観光目的の中・長期滞在者を増加させることで観光による地域振興に繋げることを提言

基礎的動体調査

01_1 訪問者数（月別）

月別訪問者数（標本数）で以下の特徴が現れた

□ : 特徴的な箇所



■ 標本数の差異について

本事業では、スマートフォンの位置情報系アプリから収集したデータを用いて分析を実施。2023年度においては連携アプリの拡充(*)に伴い、データのボリュームが増加したことで2022年度と比較した結果、標本数に差異が生じた

※ 連携アプリは非公開

■ データ収集の仕組み

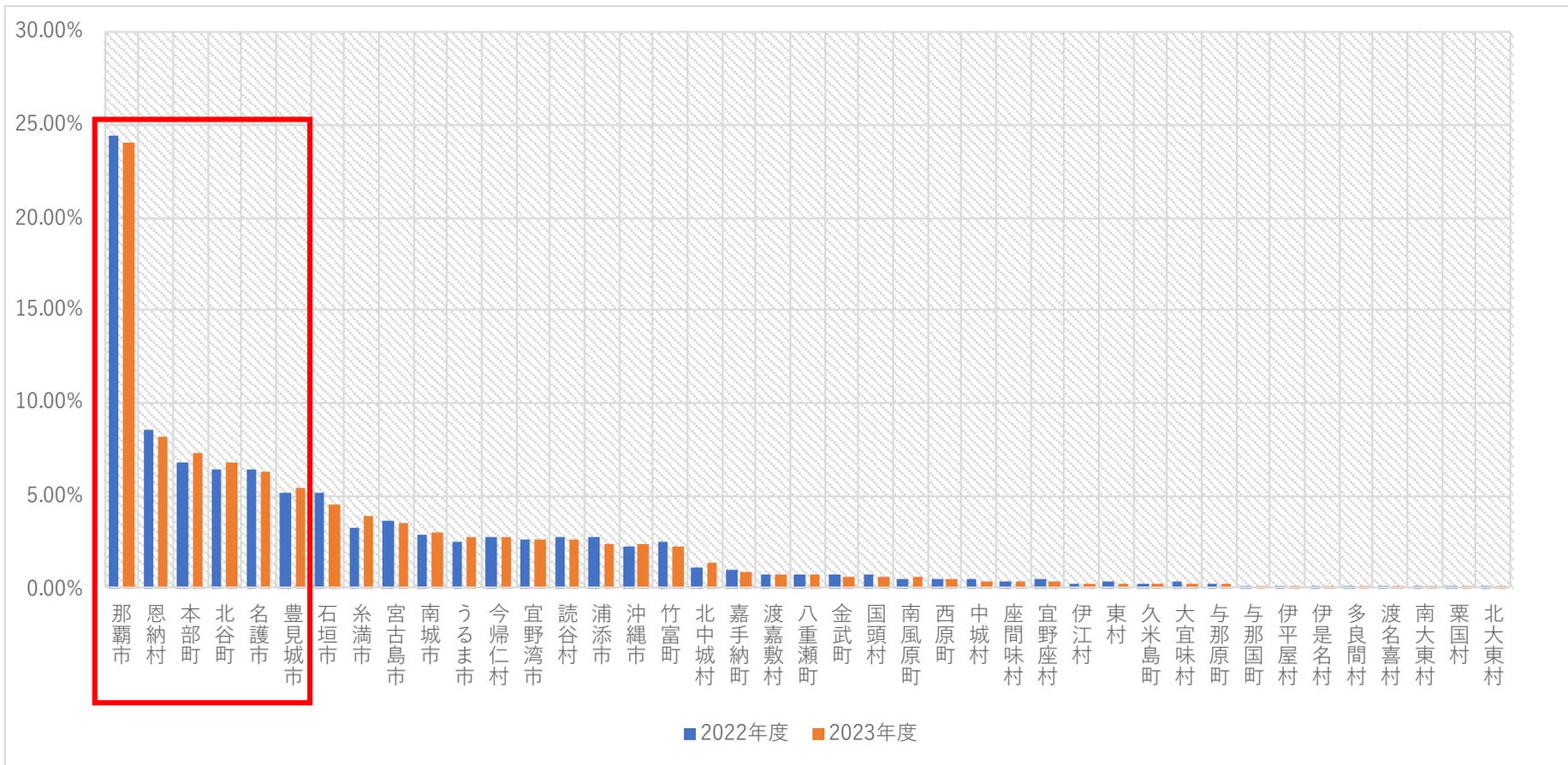


特徴

2022年度、2023年度ともに10月の来訪が年間で最も多く、1月に大幅に減少している
羽田空港における旅客機と海上保安庁機の衝突事故による羽田空港のC滑走路閉鎖が6日間続いた影響と考えられる

01_1 訪問者数（市町村別）

単位：構成比（%）



(uuid) (uuid) : 特徴的な箇所

	2022年度	構成比	2023年度	構成比	構成比増減
那覇市	26685	24.48%	118750	24.07%	↔ -0.41%
恩納村	9358	8.58%	40364	8.18%	↔ -0.40%
本部町	7437	6.82%	36113	7.32%	↔ 0.50%
北谷町	6968	6.39%	33794	6.85%	↔ 0.46%
名護市	6959	6.38%	31053	6.29%	↔ -0.09%
豊見城市	5552	5.09%	26570	5.39%	↔ 0.29%
石垣市	5562	5.10%	22535	4.57%	↓ -0.53%
糸満市	3589	3.29%	19435	3.94%	↑ 0.65%
宮古島市	4010	3.68%	17602	3.57%	↔ -0.11%
南城市	3176	2.91%	14596	2.96%	↔ 0.05%
うるま市	2760	2.53%	13913	2.82%	↔ 0.29%
今帰仁村	2941	2.70%	13852	2.81%	↔ 0.11%
宜野湾市	2876	2.64%	12839	2.60%	↔ -0.04%
読谷村	3076	2.82%	12750	2.58%	↔ -0.24%
浦添市	3023	2.77%	12049	2.44%	↔ -0.33%
沖縄市	2466	2.26%	11705	2.37%	↔ 0.11%
竹富町	2698	2.47%	11356	2.30%	↔ -0.17%
北中城村	1259	1.15%	6786	1.38%	↔ 0.22%
嘉手納町	1043	0.96%	4496	0.91%	↔ -0.05%
渡嘉敷村	750	0.69%	3862	0.78%	↔ 0.09%
八重瀬町	857	0.79%	3495	0.71%	↔ -0.08%
金武町	777	0.71%	3160	0.64%	↔ -0.07%
国頭村	789	0.72%	3004	0.61%	↔ -0.11%
南風原町	601	0.55%	2981	0.60%	↔ 0.05%
西原町	510	0.47%	2318	0.47%	↔ 0.00%
中城村	485	0.44%	1969	0.40%	↔ -0.05%
座間味村	445	0.41%	1755	0.36%	↔ -0.05%
宜野座村	528	0.48%	1511	0.31%	↔ -0.18%
伊江村	244	0.22%	1434	0.29%	↔ 0.07%
東村	353	0.32%	1421	0.29%	↔ -0.04%
久米島町	282	0.26%	1418	0.29%	↔ 0.03%
大宜味村	368	0.34%	1372	0.28%	↔ -0.06%
与那原町	246	0.23%	1221	0.25%	↔ 0.02%
与那国町	180	0.17%	675	0.14%	↔ -0.03%
伊平屋村	45	0.04%	371	0.08%	↔ 0.03%
伊是名村	21	0.02%	261	0.05%	↔ 0.03%
多良間村	31	0.03%	225	0.05%	↔ 0.02%
渡名喜村	11	0.01%	116	0.02%	↔ 0.01%
南大東村	19	0.02%	108	0.02%	↔ 0.00%
粟国村	30	0.03%	103	0.02%	↔ -0.01%
北大東村	13	0.01%	68	0.01%	↔ 0.00%

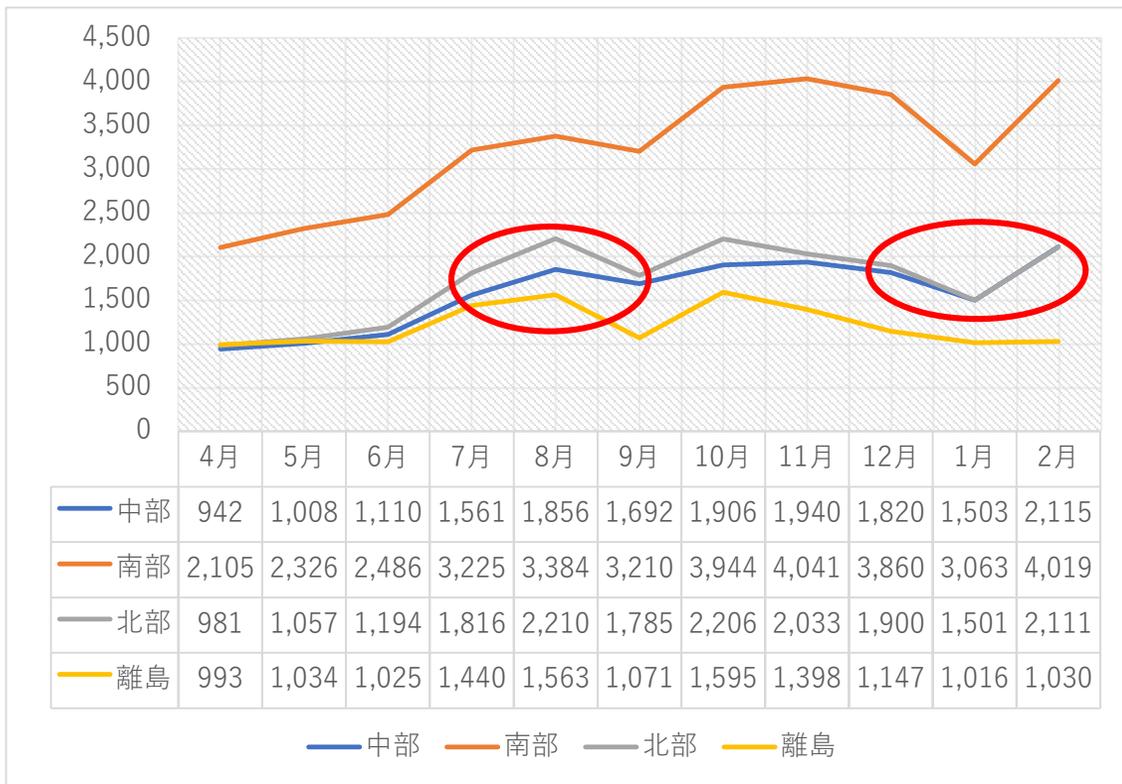
特徴

那覇市、恩納村、本部町、北谷町、名護市、豊見城市が上位。引き続き沖縄本島の観光の拠点となっている。昨年度と比較し0.5%以上増減があった市町村は石垣市と糸満市であり、糸満市の訪問割合が大きく向上。一方石垣市への訪問割合は大きく減少している

01_1 訪問者数（エリア別）

2022年度月別訪問者数（エリア別）

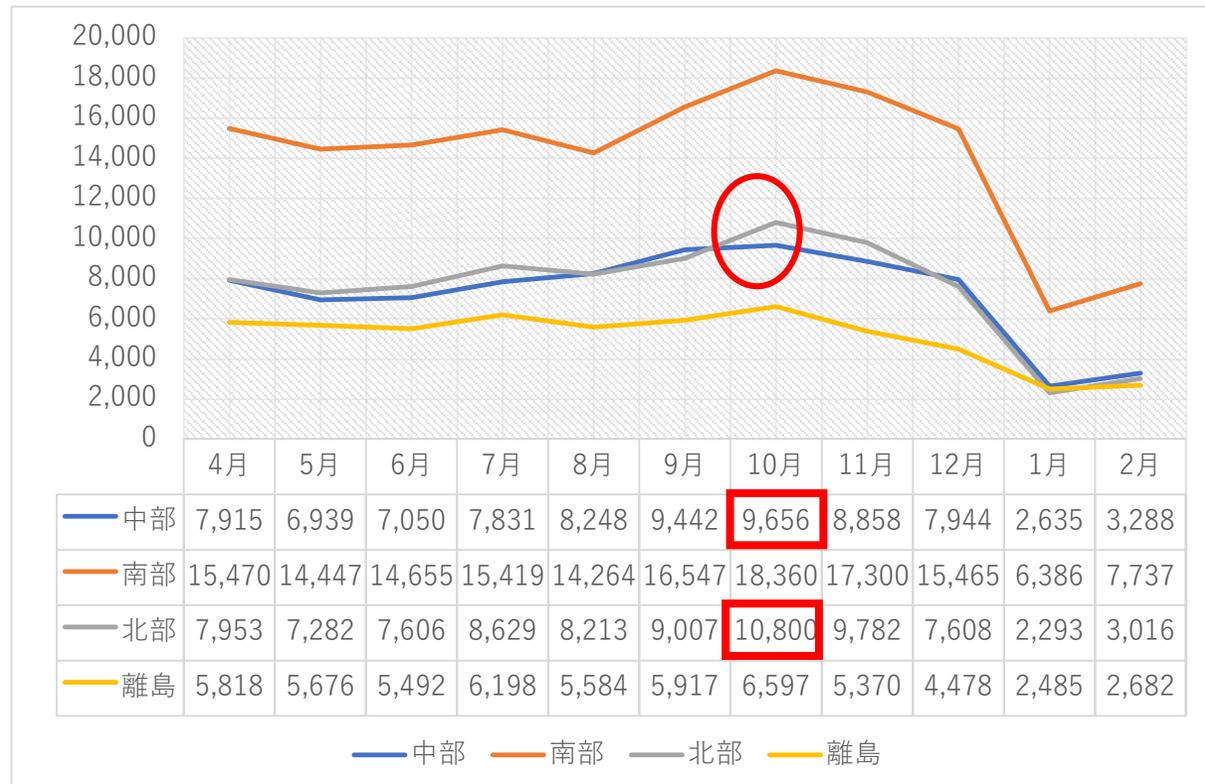
(uuid)



2023年度月別訪問者数（エリア別）

□ : 特徴的な箇所

(uuid)

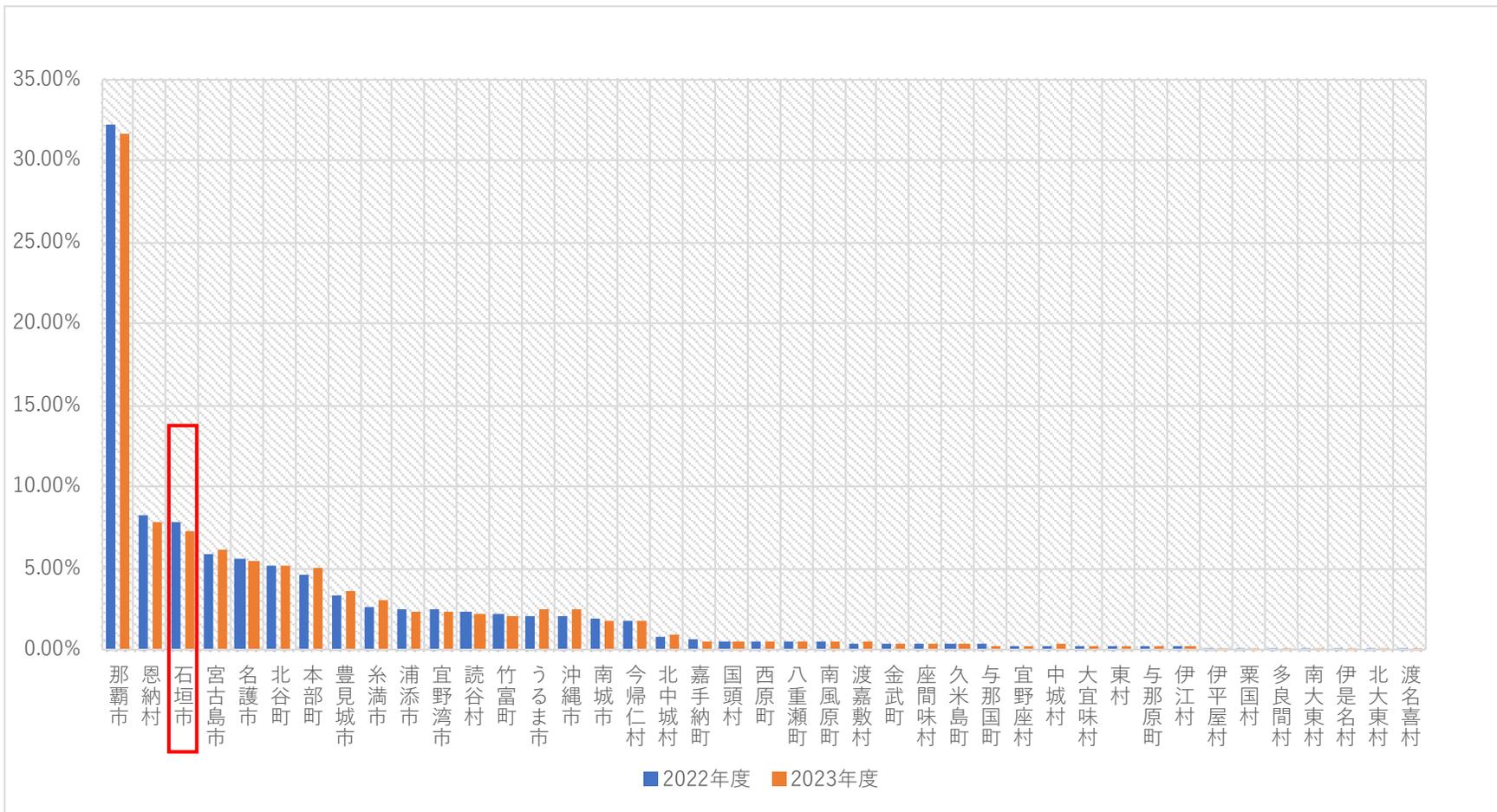


特徴

2022年度は1,2月を除き、北部の訪問者数が中部の訪問者数を上回っており、8月の差分が最も大きい。2023年度は10月に北部への訪問者数が中部を大きく上回った

01_2 訪問日数（市町村別）

単位：構成比（％）



特徴

2022年度から0.5%以上の増減があったのは石垣市であり、0.57%減少した

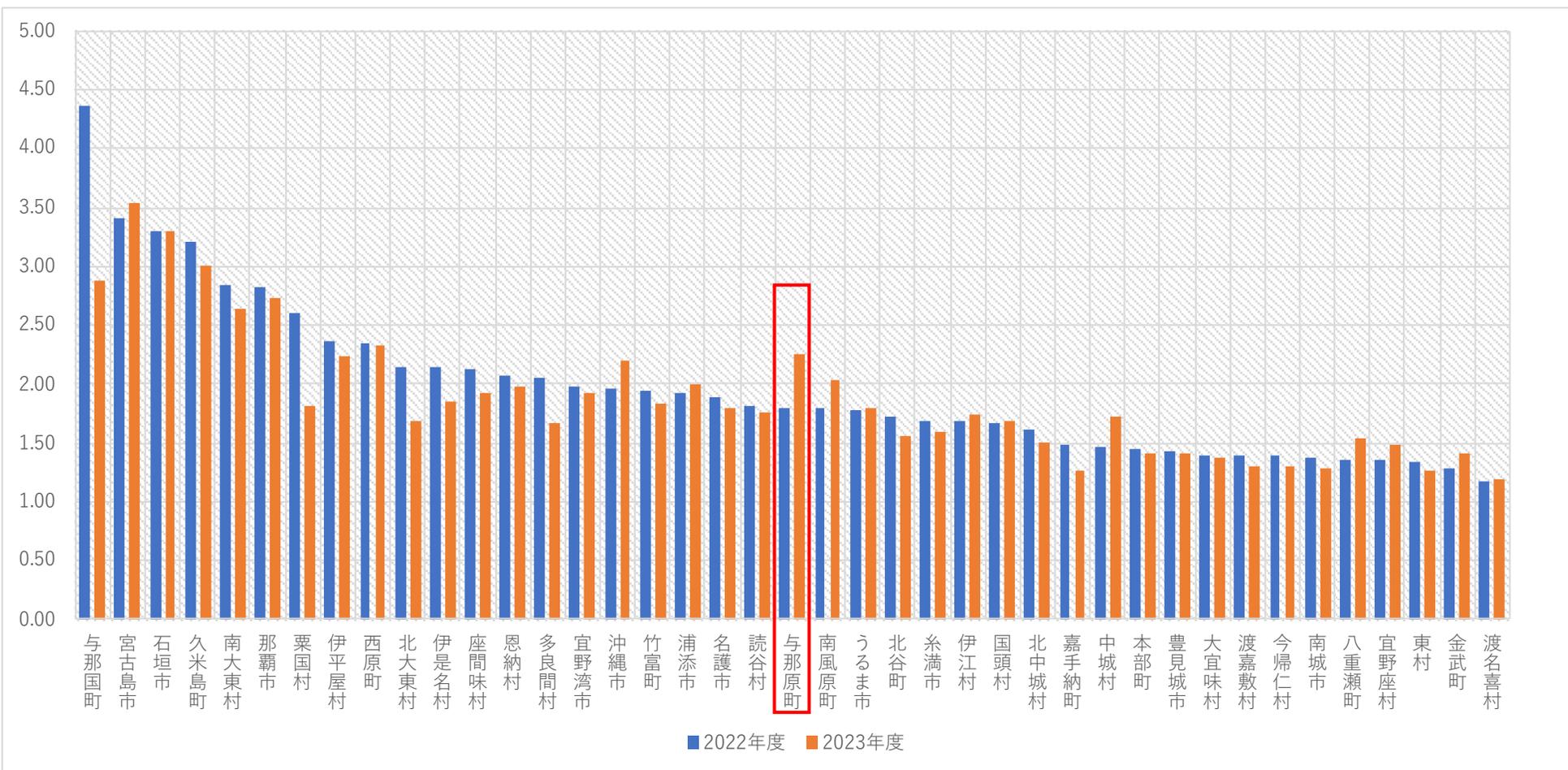
(日) (日) ：特徴的な箇所

	2022年度	構成比	2023年度	構成比	構成比増減
那覇市	75,149	32.17%	324,072	31.70%	↔ -0.47%
恩納村	19,379	8.29%	80,181	7.84%	↔ -0.45%
石垣市	18,351	7.85%	74,491	7.29%	↓ -0.57%
宮古島市	13,629	5.83%	62,377	6.10%	↔ 0.27%
名護市	13,105	5.61%	55,775	5.46%	↔ -0.15%
北谷町	12,078	5.17%	52,536	5.14%	↔ -0.03%
本部町	10,785	4.62%	51,082	5.00%	↔ 0.38%
豊見城市	7,943	3.40%	37,326	3.65%	↔ 0.25%
糸満市	6,054	2.59%	31,098	3.04%	↔ 0.45%
浦添市	5,814	2.49%	24,102	2.36%	↔ -0.13%
宜野湾市	5,673	2.43%	24,637	2.41%	↔ -0.02%
読谷村	5,565	2.38%	22,533	2.20%	↔ -0.18%
竹富町	5,238	2.24%	20,795	2.03%	↔ -0.21%
うるま市	4,919	2.11%	25,093	2.45%	↔ 0.35%
沖繩市	4,842	2.07%	25,661	2.51%	↔ 0.44%
南城市	4,372	1.87%	18,815	1.84%	↔ -0.03%
今帰仁村	4,092	1.75%	18,045	1.76%	↔ 0.01%
北中城村	2,030	0.87%	10,195	1.00%	↔ 0.13%
嘉手納町	1,554	0.67%	5,705	0.56%	↔ -0.11%
国頭村	1,312	0.56%	5,090	0.50%	↔ -0.06%
西原町	1,194	0.51%	5,409	0.53%	↔ 0.02%
八重瀬町	1,165	0.50%	5,387	0.53%	↔ 0.03%
南風原町	1,074	0.46%	6,052	0.59%	↔ 0.13%
渡嘉敷村	1,040	0.45%	5,045	0.49%	↔ 0.05%
金武町	1,003	0.43%	4,438	0.43%	↔ 0.00%
座間味村	944	0.40%	3,372	0.33%	↔ -0.07%
久米島町	904	0.39%	4,252	0.42%	↔ 0.03%
与那国町	786	0.34%	1,938	0.19%	↔ -0.15%
宜野座村	715	0.31%	2,238	0.22%	↔ -0.09%
中城村	706	0.30%	3,376	0.33%	↔ 0.03%
大宜味村	511	0.22%	1,880	0.18%	↔ -0.03%
東村	468	0.20%	1,806	0.18%	↔ -0.02%
与那原町	442	0.19%	2,744	0.27%	↔ 0.08%
伊江村	409	0.18%	2,487	0.24%	↔ 0.07%
伊平屋村	106	0.05%	832	0.08%	↔ 0.04%
栗国村	78	0.03%	187	0.02%	↔ -0.02%
多良間村	64	0.03%	377	0.04%	↔ 0.01%
南大東村	54	0.02%	285	0.03%	↔ 0.00%
伊是名村	45	0.02%	485	0.05%	↔ 0.03%
北大東村	28	0.01%	115	0.01%	↔ 0.00%
渡名喜村	13	0.01%	138	0.01%	↔ 0.01%

↑ +0.5%以上 ↓ -0.5%以下 ↔ -0.5% < n < +0.5%

01_3 平均訪問日数（市町村別）

(日)



(日) : 特徴的な箇所

	2022年度	2023年度	増減
与那国町	4.37	2.87	↓ -1.50
宮古島市	3.40	3.54	→ 0.14
石垣市	3.30	3.31	→ 0.01
久米島町	3.21	3.00	→ -0.21
南大東村	2.84	2.64	→ -0.20
那覇市	2.82	2.73	→ -0.09
粟国村	2.60	1.82	↓ -0.78
伊平屋村	2.36	2.24	→ -0.12
西原町	2.34	2.33	→ -0.01
北大東村	2.15	1.69	↓ -0.46
伊是名村	2.14	1.86	→ -0.28
座間味村	2.12	1.92	→ -0.20
恩納村	2.07	1.99	→ -0.08
多良間村	2.06	1.68	↓ -0.38
宜野湾市	1.97	1.92	→ -0.05
沖繩市	1.96	2.19	→ 0.23
竹富町	1.94	1.83	→ -0.11
浦添市	1.92	2.00	→ 0.08
名護市	1.88	1.80	→ -0.08
読谷村	1.81	1.77	→ -0.04
与那原町	1.80	2.25	↑ 0.45
南風原町	1.79	2.03	→ 0.24
うるま市	1.78	1.80	→ 0.02
北谷町	1.73	1.55	→ -0.18
糸満市	1.69	1.60	→ -0.09
伊江村	1.68	1.73	→ 0.05
国頭村	1.66	1.69	→ 0.03
北中城村	1.61	1.50	→ -0.11
嘉手納町	1.49	1.27	→ -0.22
中城村	1.46	1.71	→ 0.25
本部町	1.45	1.41	→ -0.04
豊見城市	1.43	1.40	→ -0.03
大宜味村	1.39	1.37	→ -0.02
渡嘉敷村	1.39	1.31	→ -0.08
今帰仁村	1.39	1.30	→ -0.09
南城市	1.38	1.29	→ -0.09
八重瀬町	1.36	1.54	→ 0.18
宜野座村	1.35	1.48	→ 0.13
東村	1.33	1.27	→ -0.06
金武町	1.29	1.40	→ 0.11
渡名喜村	1.18	1.19	→ 0.01

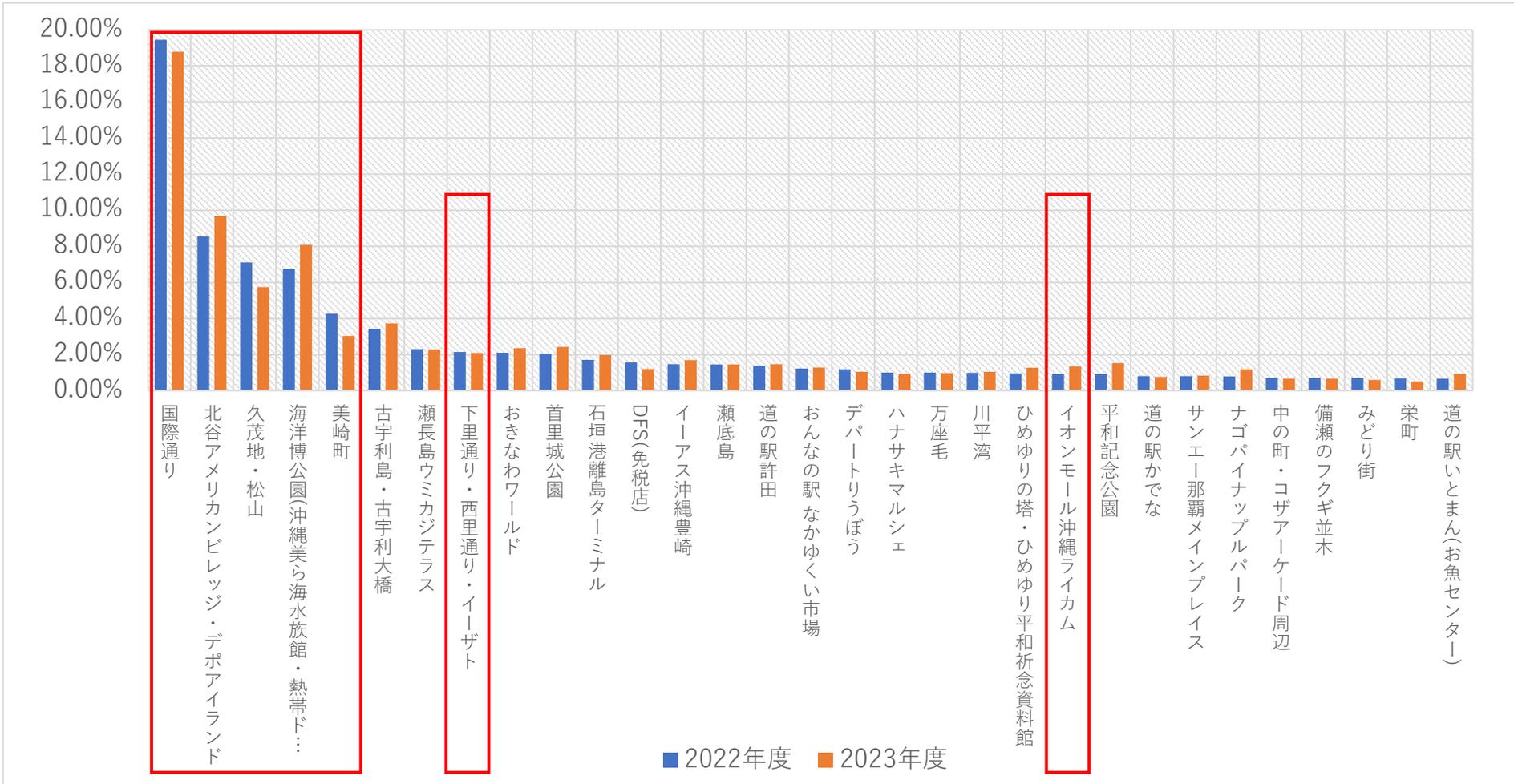
特徴

離島の平均訪問日数が長い傾向。2022年度と比較し、平均訪問日数が増加したのは与那原町 (+0.45日)。一方与那国町、粟国村、北大東村、多良間村の平均訪問日数が減少した

02_1 施設別訪問件数（人気施設）

□ : 特徴的な箇所

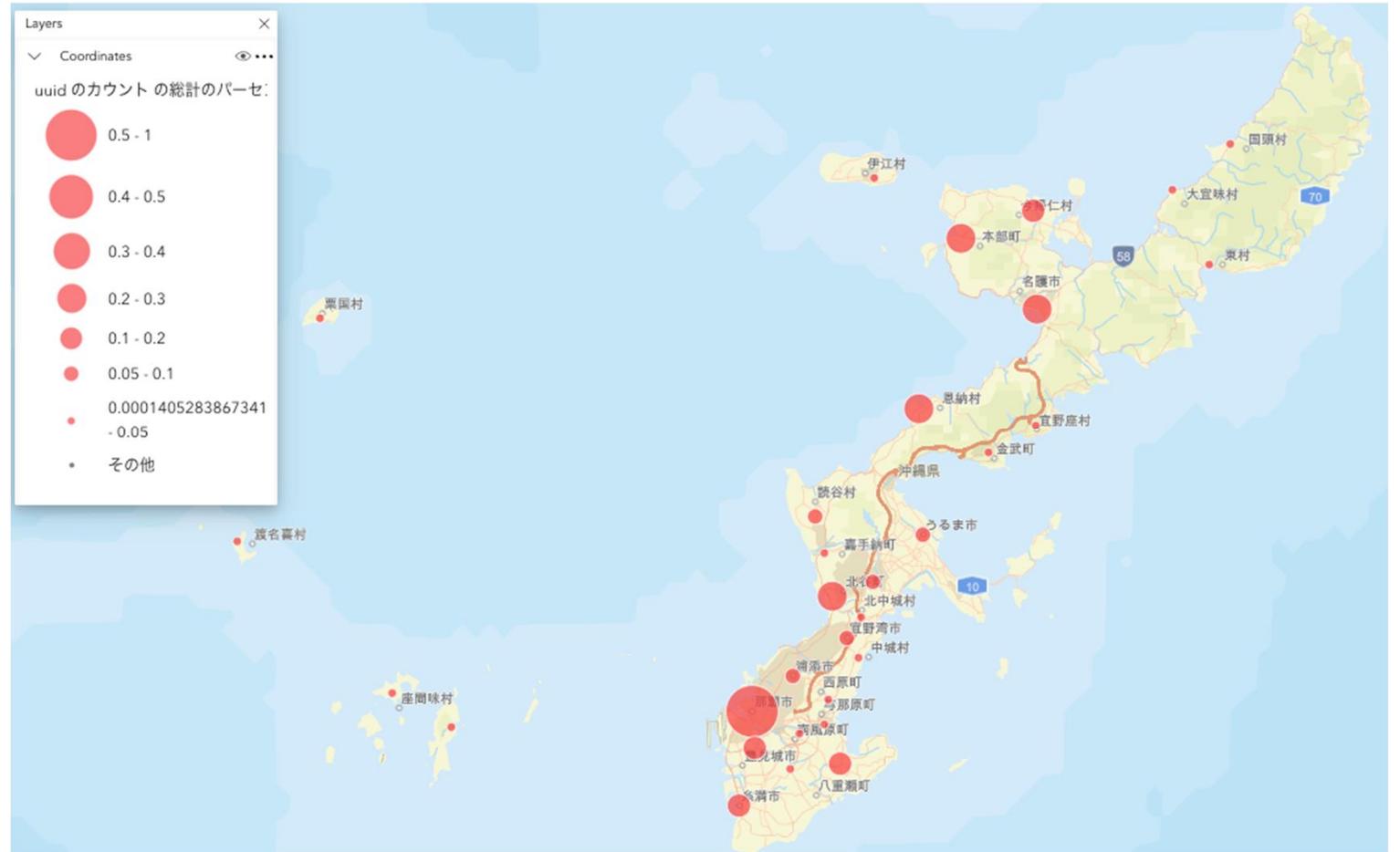
単位：構成比（%）



特徴

2023年度は2022年度と比較し北谷アメリカンビレッジ、海洋博公園、イオンモール沖縄ライカムなどの訪問割合が増加している。一方、国際通り、久茂地・松山、石垣市美崎町、宮古島市下里通り・西里通りなど、繁華街の訪問割合が減少している。要因として、ふるさと納税による域内での消費の活性化に訪れる可能性、課題としてレンタカー不足が解消され本部地域へのアクセス増による可能性があげられる（※要因調査参照）

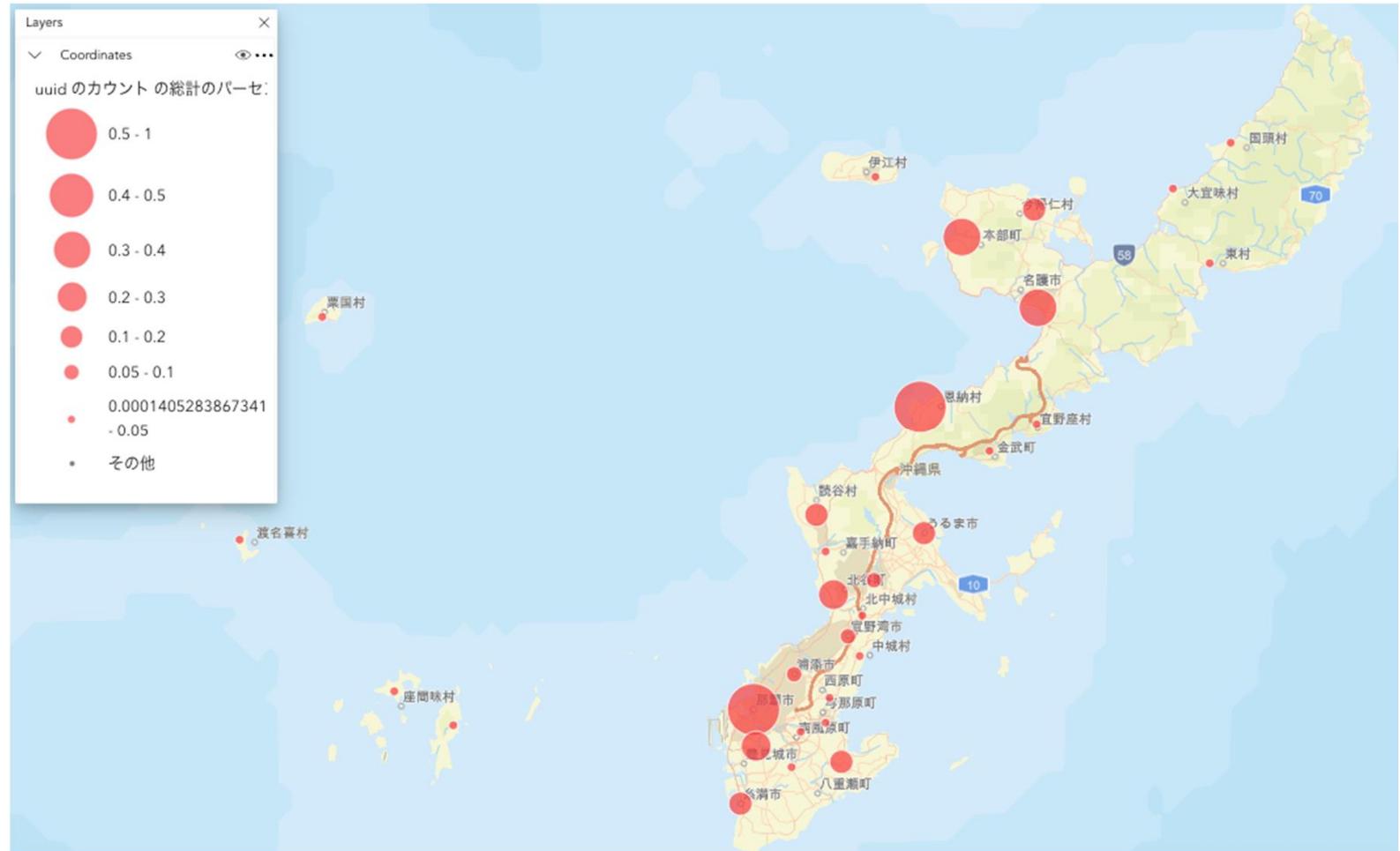
04_1 エリア相関那覇市（2023年度）



特徴

2022年度同様、2023年度も恩納村、本部町、北谷町、名護市、豊見城市との相関性が高い

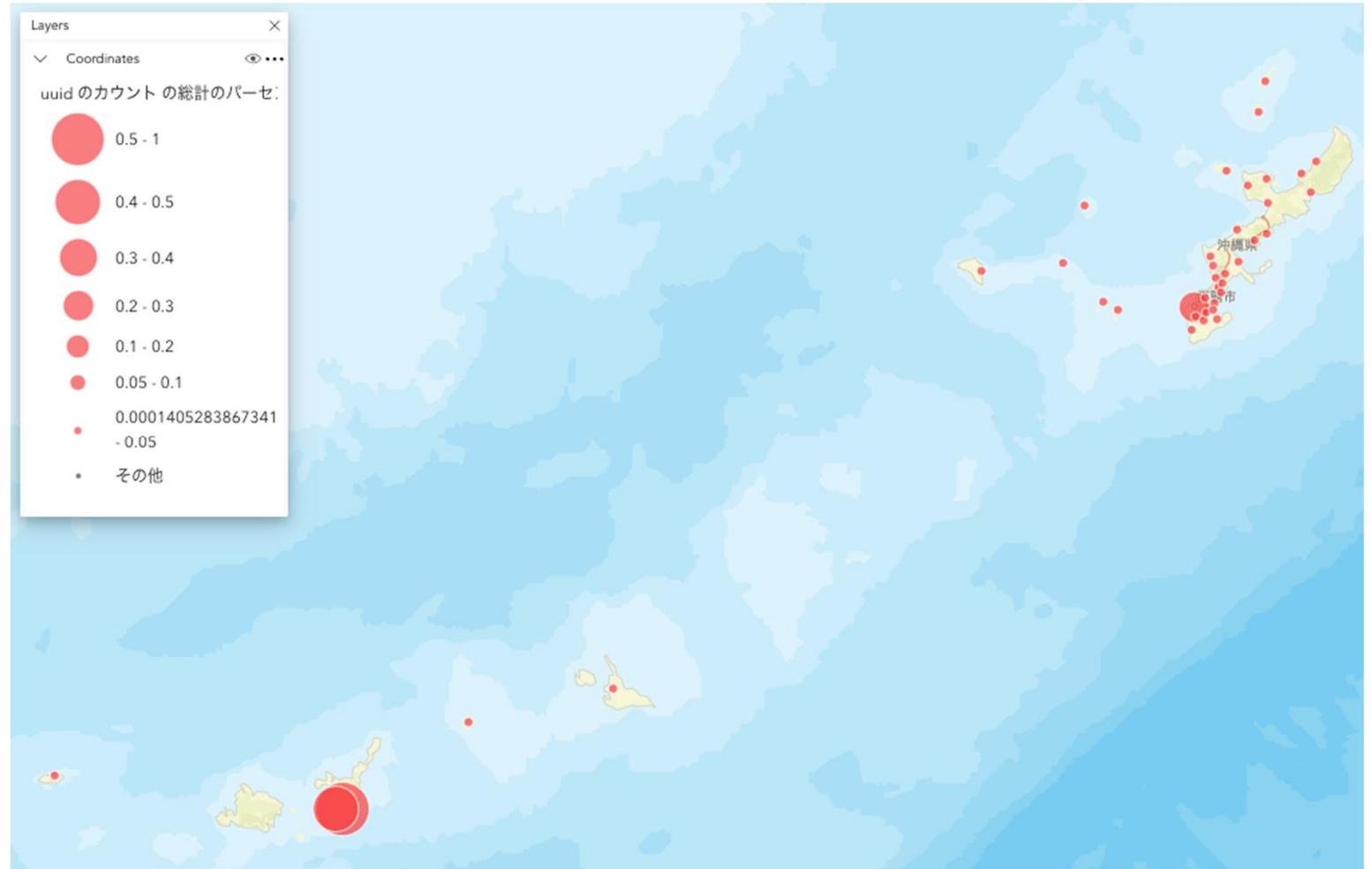
04_1 エリア相関恩納村（2023年度）



特徴

2022年度同様、2023年度も那覇市、本部町、名護市、北谷町、豊見城市との相関性が高い

04_1 エリア関連石垣市（2023年度）



特徴

2022年度同様石垣市訪問者のうち約46%が竹富町を訪問し、約28%が那覇市を訪問している。その他の市町村への訪問は3%台と少ないことから、石垣訪問者は那覇市をトランジットとして活用し、竹富町以外への訪問はあまりない。

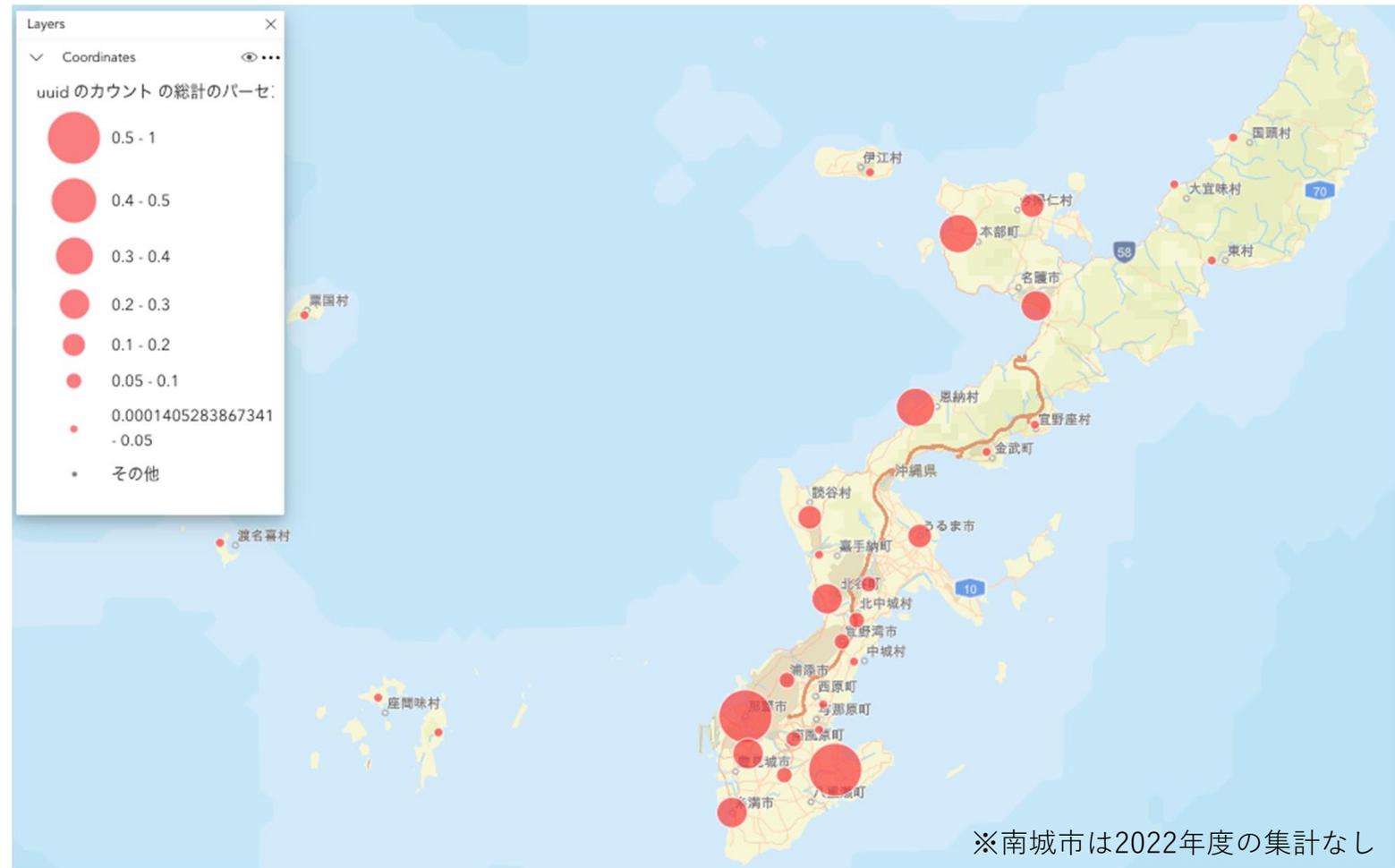
04_1 エリア相関読谷村（2023年度）



特徴

読谷村においても那覇市、本部町、恩納村、北谷町、豊見城市、名護市との相関性が高い
沖縄本島における拠点観光地は上記6市町村であると言える

04_1 エリア相関南城市（2023年度）



特徴

南城市においても那覇市、本部町、恩納村、北谷町、豊見城市、名護市との相関性が高い
ただ、南城市の場合は糸満市との相関が他市町村よりも高い

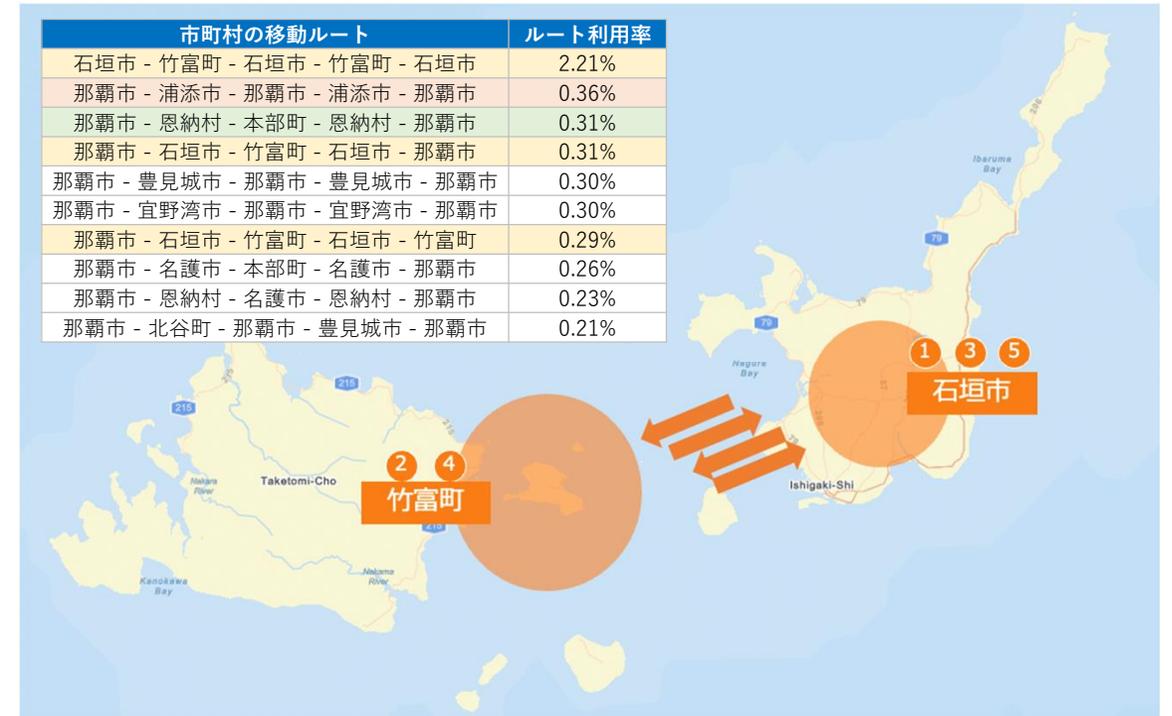
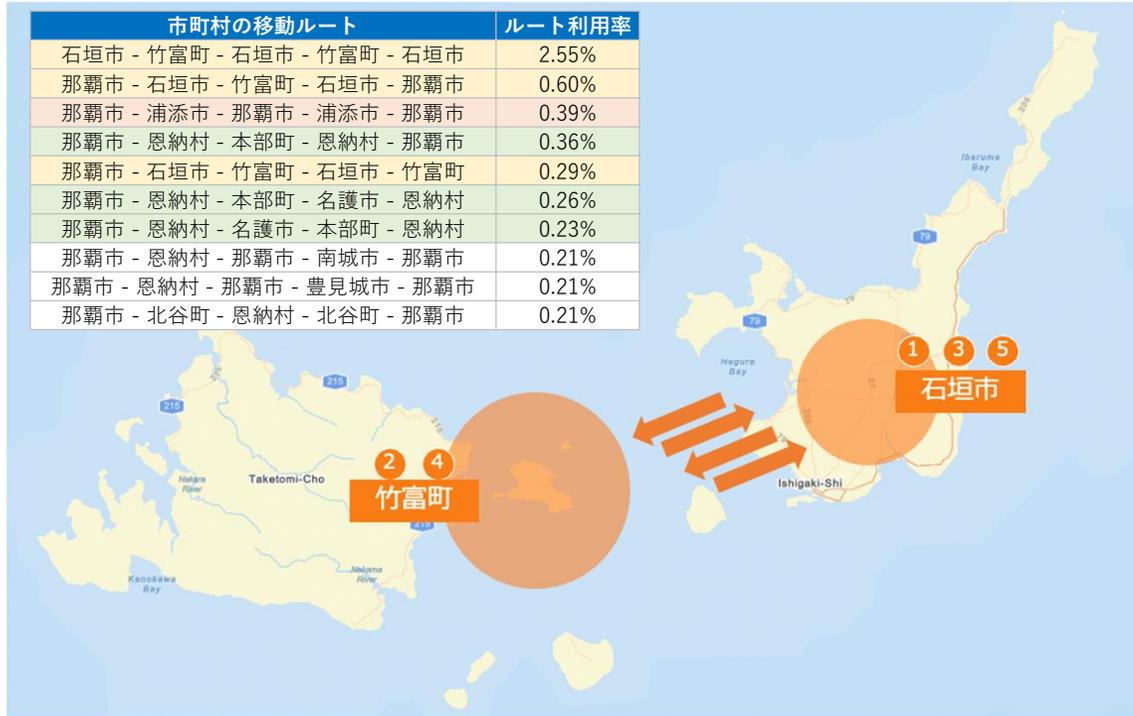
06_1 市町村別移動ルート

旅行者が沖縄滞在中に連続して5箇所訪問（visit:15分以上）した市町村を抽出し、人気ルートを調査

- : 石垣市-竹富町のルート
- : 那覇市-浦添市のルート
- : 本島内周遊ルート

2022年度

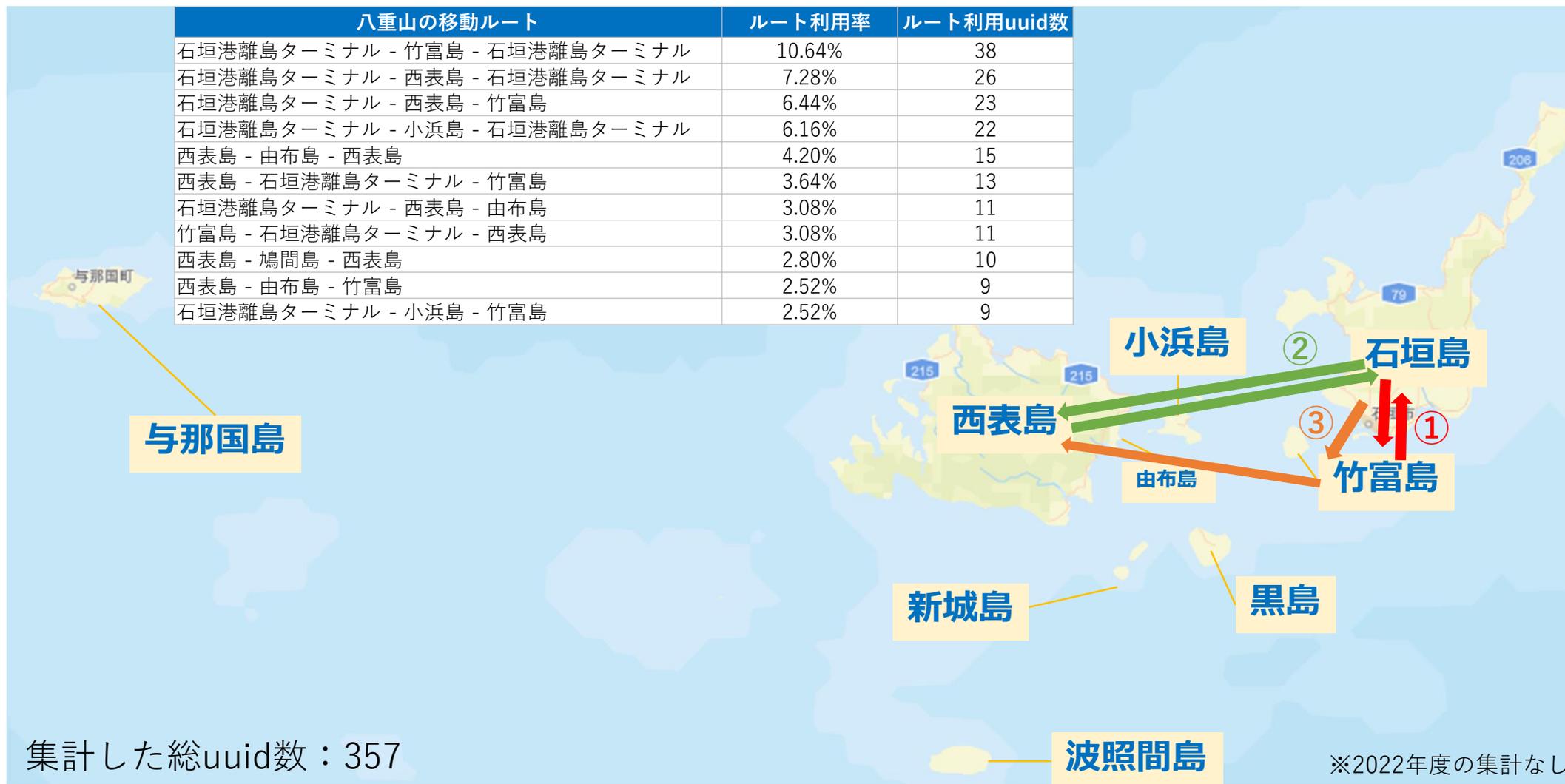
2023年度



特徴

2022年度、2023年度ともに石垣市と竹富町（一部那覇市を含む）を往来するルートが最も人気
 その他、那覇市と浦添市の往来や那覇市、恩納村、本部町を含むルートが人気となっている

06_1 八重山諸島3地点間移動ルート __ 2023年度



特徴

石垣島と竹富島間の移動が最も多く、次いで石垣島と西表島、石垣島-西表島-竹富島の順となった

06_2 スポット別移動ルート

2022年度移動ルート利用率

スポット別移動ルート	ルート利用率
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	2.30%
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山	1.46%
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド - 国際通り	0.22%
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - デパートりうぼう - 国際通り	0.12%
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 海洋博公園(沖縄美ら海水族館・熱帯ドリームセンター)	0.12%
国際通り - 壺屋やちむん通り - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.12%
久茂地・松山 - 国際通り - 栄町 - 久茂地・松山 - 国際通り	0.10%
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 海洋博公園(沖縄美ら海水族館・熱帯ドリームセンター) - 古宇利島・古宇利大橋	0.10%
国際通り - デパートりうぼう - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.10%
国際通り - 栄町 - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.10%

2023年度移動ルート利用率

スポット別移動ルート	ルート利用率
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山	0.69%
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.65%
美崎町 - 石垣港離島ターミナル - 西表島 - 由布島 - 西表島	0.09%
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド - 久茂地・松山	0.08%
国際通り - デパートりうぼう - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.07%
国際通り - 北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド - 国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り	0.07%
北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド - 沖縄アリーナ - 北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド - 沖縄アリーナ - 北谷アメリカンビレッジ・デポアイランド	0.07%
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - 海洋博公園(沖縄美ら海水族館・熱帯ドリームセンター) - 久茂地・松山	0.06%
国際通り - 久茂地・松山 - 国際通り - 首里城公園 - 国際通り	0.06%
久茂地・松山 - 国際通り - 久茂地・松山 - デパートりうぼう - 久茂地・松山	0.06%

特徴

2023年度は2022年度と比較し北谷アメリカンビレッジと沖縄アリーナを周遊するルートが上位に入っている。FIBAバスケットボールW杯の影響と考えられる